備前市事務事業評価シート

（平成22年度事業）

事業の概要					
事業開始年度		昭和41年度～	根拠法令・例規等	廃棄物の処理及び清掃に関する法律 和気北部衛生施設組合規約	
総合計画 大項目	基本目標	01 安全で快適に暮らせるまちづくり	問合先 担当課（室）	環境課	
中項目	基本施策	01 生活しやすいまちづくり	職・氏名	衛生係長・古松健二	
小項目	施策	14 ごみ処理	電話	64-1821	
事務事業名		05 和気北部衛生施設組合負担金事業	このシート作成に要した時間	1.0 時間	

Plan

事業の目的	
対象（誰・何に対して）	ごみ（一般廃棄物）の処理を必要とする日生地域の市民・市内事業者。 ごみ（一般廃棄物）の収集・処理を必要とする吉永地域の市民・市内事業者。
目的（何のために）	市が加入している和気北部衛生施設組合のごみ収集・処理経費、福祉バス運行経費及び和気鵜飼谷温泉建設による公債費に係る分担金の納付
事業の意図する成果（どのような状態にしたいのか）	日生地域・吉永地域のごみ処理を効率的かつ適正に行う

Do

事業の実績		
細事業名	事業の説明	優先度
目的を達成するため実施した事業	和気北部衛生施設組合負担金	和気北部衛生施設組合の、ごみ処理施設の運営費、福祉バスの運行経費及び和気鵜飼谷温泉の建設費の負担金・分担金を納付する。	◎

事業費等		単位	平成20年度実績		平成21年度実績		平成22年度実績	
決算額 事業費	直接事業費	千円		63,340		61,574		67,632
	必要人員 人件費		0.07人	697	0.01人	107	0.02人	207
	事業費計			64,037		61,681		67,839
財源	国県支出金	千円						
	受益者負担							
	繰入金							
	市債							
	その他（　）							
	一般財源			64,037		61,681		67,839
受益者負担比率		%						－

結果指標名		単位	平成20年度実績	平成21年度実績	平成22年度実績
結果指標	ごみ処理量（吉永・日生地域分）	説明	ごみ処理量（吉永・日生地域分）		
	結果指標量	t	2,701	2,685	2,550
	対前年比	%		99.4%	95.0%
	活動コスト	円			
	単位当たりコスト		0	0	0

事業の意図する成果とつながる成果指標を設定

事業の目的、対象、内容を考えながら妥当性を評価

事業費や受益者負担比率、単位当たりコストに留意しながら効率性を評価

事業の目的やその数値目標である成果指標に留意しながら有効性を評価

事業の成果					
成果指標名	年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度目標値
	目標値（A）				
	実績値（B）				到達目標値
	達成率（B/A）	#DIV/0!	#DIV/0!	#DIV/0!	

成果指標設定の考え方・式や説明

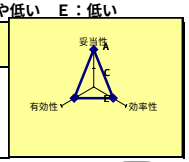
負担金は経常経費を分担率（利用率）で建設費分担金、整備基金分担金は均等割20%、人口割35%利用量割45%で分担するものであり成果指標を掲げることは難しい。
また、日生、吉永地域での収集・処理体系に違いがあるため、成果指標を掲げることは難しい。

Check

事務事業の評価		5段階評価（A～E）のランク基準　A：高い　B：やや高い　C：普通　D：やや低い　E：低い	
妥当性の評価	市の関与の妥当性	☑ 市が実施するよう法令で義務づけられている	妥当性評価 <A～E>
		☐ 法令で義務づけられてないが、実施しなければ大半の市民の日常生活に支障をきたす	A
		☐ 現在市が実施しているが、実施しなくても市民の日常生活に支障をきたさない	
		☐ 事業の内容が一部の受益者に偏っている	
	必要性	☐ 対象者は限定的であるが社会的弱者等を対象としている	
		☑ 現在の市を取り巻く環境からも目的・意図する成果は妥当である	
		☐ 事業開始当初の目的から変化してきている	
		☐ 事業開始当初の目的は、ほぼ達成されている	
		☑ 厳しい財政状況であるが、実施する必要がある	
	市民ニーズ	☐ 市民・団体等から要望・要請が強い	
効率性の評価	コスト	☑ 単位当たりコストは前年度と比較して改善している	効率性評価 <A～E>
		☐ 実施方法（派遣・委託含）を見直すことでコストを下げる余地がある	C
		☐ 事務の電子化や事務改善によりコストを下げる余地がある	
		☑ コスト削減の努力はしているが、下がる余地は小さい	
	手段	☐ 受益者負担率は適正である	
		☐ 受益者負担率を見直す余地がある	
		☐ サービスを維持するためこれ以外、他に手段が見当たらない	
		☐ 現在の手段は過剰なサービスのため、改善の余地がある	
		☐ 最適な手段を求めて職場内で改善・研修に努めている	
有効性の評価	目的達成度	☐ 成果指標の設定は適切である	有効性評価 <A～E>
		☐ 成果指標の到達目標値は達成できそうである	C
		☐ 成果指標達成率は前年度と比較して向上している	
		☐ 成果指標達成率は80%未満となっている	
		☐ 現在の事業を継続しても成果指標の向上は期待できない	
	市民参画度	☑ 法定事務 ・ 内部管理事務　であり成果は求めにくい	
		☐ 事業について積極的にHPや広報等で情報提供している	
		☐ 事業にはNPO、ボランティア団体等が参画している	

進行年度（H23年度）の改革改善内容								
状況	拡充	現状継続	見直し	縮小	整理統合	休止	廃止・完了
		○					
説明	負担金の一部は前年度のごみ処理量によっても決定されているため、ごみの減量化に努める必要がある。 また現在、和気北部衛生施設組合に委託しているごみ処理事業は、施設の使用期限が26年3月までであり、今後の動向を注視しなければならない。						

総合評価	5段階評価（A～E）のランク基準　A：高い　B：やや高い　C：普通　D：やや低い　E：低い	
	備前市は、和気北部衛生施設組合に加入しており、施設の運営費、建設費の負担金、分担金を納付しなければならない。 負担金の一部は前年度のごみ処理量によっても決定されているため、ごみの減量化に努める必要がある。 また現在、和気北部衛生施設組合に委託しているごみ処理事業は、備前広域環境施設組合のごみ処理施設（平成26年度稼動予定）へ移行する計画であったが、組合が解散になり、施設の使用期限が26年までであり、今後の動向を注視しなければならない。平成21年度より解体費用等の積立を開始している。	評価区分 <A～E> B



Action

平成24年度の方向性・取組目標							
方向性	拡充	現状継続	見直し	縮小	整理統合	休止	廃止・完了
		○					
取組目標	現状を継続しつつも今後の和気北部衛生施設組合の動向を注視する。 和気北部衛生施設組合が解散になった場合を想定し日生、吉永のごみ処理の検討を行う。						